

確かな暮らし 未来につなぐ 田園都市



第五次塩尻市総合計画
〈長期戦略・第2期中期戦略〉
平成30年4月
塩尻市



確かな暮らしに磨きをかけ

選ばれ続ける塩尻市に

平成 27 年度を始期とする第五次塩尻市総合計画は、史上類を見ない人口減少、超高齢社会の中、本市が元気な地方都市として内外に選ばれる地域であり続けるために、未来のあるべき姿を多様な主体と連携し創造していく羅針盤であり、重点項目を明示した戦略計画として策定いたしました。

計画期間の最初の 3 カ年、第 1 期中期戦略では、本市の持つ最大の強み「暮らしやすさ」に磨きをかける最優先の取り組みとして、「子育てしたくなるまち日本一」を目指した諸施策をはじめ、市民の皆様の「確かな暮らし」のために経営資源を集中的に投入してきました。

こうしたことから、子育て世代をはじめとした人口の社会増加が継続し、目標人口 6 万 5 千人以上の確保に向けて明るい展望が開けてくるなど、内外に選ばれ続けるまちが着実に形づくられてきている手応えを感じております。

これからの 3 カ年、第 2 期中期戦略では、これまでの取り組みに加え、必要な未来への投資を実現するとともに新たなまちづくりにも果敢に挑戦し、「確かな暮らし 未来につなぐ田園都市」を創造していきます。皆様と一緒に、本市の確かな明日のための一步をともに進めてまいりましょう。

平成 30 年 4 月

塩尻市長 小口 利幸

目次

塩尻市の姿	4
-------------	---

長期戦略

1 第五次総合計画の概要

総合計画の策定方針	8
総合計画の構成	8
総合計画の進行管理	9

2 目指す都市像

本市を取り巻く環境の変化 ～ 2040 年の世界・日本・塩尻市～	10
本市が 30 年後にも“選ばれる地域”であり続けるために	11
目指す都市像	12
基本戦略	14
基本戦略 A 子育て世代に選ばれる地域の創造	16
基本戦略 B 住みよい持続可能な地域の創造	17
基本戦略 C シニアが生き生きと活躍できる地域の創造	18
基本戦略を包括し機能的に推進するプロジェクト	19

3 都市像の実現へ向けた行政経営の考え方

行政の使命・業務領域	20
行政マネジメントの基本方針	21

第2期中期戦略

1 第五次総合計画 中期戦略の概要

中期戦略の位置付け・構成	24
--------------------	----

2 プロジェクトの概要

プロジェクトの全体像	26
成果指標	27

3 全市戦略

全市戦略の構成と見出しの説明	28
プロジェクト1 子どもを産み育てる環境の整備	29
プロジェクト2 教育再生による確かな成長の支援	36
プロジェクト3 産業振興と就業環境の創出	41
プロジェクト4 地域資源を生かした交流の推進	48
プロジェクト5 域内循環システムの形成	53
プロジェクト6 危機管理の強化と社会基盤の最適活用	58
プロジェクト7 生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築	69
プロジェクト8 健康寿命の延伸と住み慣れた地域での生活継続	73
プロジェクト9 地域ブランド・プロモーション	78
プロジェクト10 地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり	82

付属資料

1 長期財政フレーム	90
2 第2期中期戦略策定に向けた検討等の経過	91
3 塩尻市総合計画審議会委員名簿	91
4 第五次総合計画第2期中期戦略庁内策定組織名簿	92
5 諮問	93
6 答申	94
用語解説	95

* マークの付いた用語の解説が冊子巻末の「用語解説」のページに掲載されています。

塩尻市の姿

塩尻市民憲章

(昭和 56 年 6 月 26 日議決)

わたくしたちは
美しい自然と伝統ある文化に恵まれた
ふるさと塩尻の市民であることに誇りをもち
だれにも親しまれ愛される豊かな田園都市をめざして
ここに憲章を定めます

一 わたくしたちは
みどりを大切にし
田園と都市の調和のとれた
風格あるふるさとをつくります

一 わたくしたちは
健康で働くよろこびを大切にし
活力ある住みやすいふるさとをつくります

一 わたくしたちは
心のふれあいを大切にし
文化のかおり高い夢のあるふるさとをつくります



市の花
キキョウ



市の木
イチイ

❖ 沿革

本市は、昭和 34 年に塩尻町、片丘村、広丘村、宗賀村及び筑摩地村の 1 町 4 村の合併により市制を施行し、続いて昭和 36 年に洗馬村が、平成 17 年に木曽郡檜川村が編入合併となり、今日に至っています。



❖ 概要

本市は、松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置し、市内には信濃川水系と天竜川水系の各河川が流れ、塩尻峠と善知鳥峠、鳥居峠は、太平洋と日本海への分水嶺となっています。

地形は扇状地形で、東西 17.7 キロメートル、南北 37.8 キロメートル、面積は約 290.18 平方キロメートルを有しています。北アルプス、鉢盛連峰、東山・高ボッチ山、さらには中央アルプスの山並みを背景に田園風景が広がる、清浄な水と緑に囲まれた歴史あるふるさとです。

また、太平洋側と日本海側の交通が交差する交通の要衝で、鉄道は JR 中央東線・西線及び篠ノ井線が通過するとともに、主要幹線道路は、長野自動車道のほか、一般国道 19 号、20 号及び 153 号が通過し、分岐点にもなっています。昭和 40 年には松本空港（信州まつもと空港）が開港し、国際化に向けた要件も備えています。

産業面を見ると、農業は、都市近郊型の利を生かして、野菜と果樹の生産体制が形成され、レタスを中心に豊富な種類の野菜が栽培されています。また、果樹は、ブドウ、リンゴ、ナシ等が栽培され、特に、欧州系ブドウを原料とするワインの醸造は、国際的にも高い評価を受けています。

林業は、豊かな森林資源を活用し、産業の活性化と森林の再生を図るとともに、木質バイオマス発電等、熱資源の利用による循環型社会の形成へと可能性を広げています。

基幹産業の製造業は、市内に、最先端の技術、人材、拠点施設等が集積し、高い製造品出荷額を誇るなど、市内産業を牽引しています。

また、400 年以上の伝統を誇る木曽漆器は、今なお、その伝統技術を継承し、地場産業として栄えています。

観光では、奈良井宿、平出遺跡などの歴史的・文化的遺産、観光と農業が融合した「チロルの森」、さらに八ヶ岳中信高原国定公園などの観光資源も豊富で、地域資源を活用した新たな価値を付け加えるなど、観光地としての魅力向上を図っています。

こうした社会・経済を背景に、自然と都市が調和した都市として発展が期待されています。

塩尻市の広さ

面積	290.18 km ²
東西	17.7 km
南北	37.8 km
周囲	114.6 km

塩尻市役所の位置

東経	137°57'12"
北緯	36°06'53"
標高	713 m